

自動車関連部品製造のダイヤモンド(新潟市東区)は、民事再生手続きの終結決定から6日で丸1年となる。同社は2016年と18年に検査データ改ざん問題が相次ぎ発覚。経営改善に向けて昨年4月、社長に就任した伊井浩氏(64)に再発防止策や今後の経営戦略などを聞いた。

(報道部・小池大)

この人に聞く

―子会社を含め県内最大の負債総額約603億円を抱えた民事再生手続きの終結から1年となりました。

「関係各位にご迷惑をおかけし、心からおわび申し上げます。従業員や協力会社、地域とともに再建に取り組み、22年3月期の営業損益は品質問題発覚後では初となる7期

ダイヤモンド社長 伊井 浩氏



EV対応、海外強化へ

民事再生終結から1年

ぶりの黒字に転換した。新規の引き合いも増え、新生ダイヤモンドに対する期待も感じている。やっとスタートラインに立てた」

―再発防止への意識改革や収益改善にどう取り組みましたか。

「検査体制の強化や各工程の見直しにより品質

管理を徹底し、取引先の信頼回復を図ってきた。意識改革では従業員との対話を重視した。社長に就いた時点では、従業員

のモチベーションが高かったとは思っていない。四半期ごとの全体集会のほか、部署横断型で少数のミーティングを小ま

めに行い、会社の課題な

ど情報共有に努めた。従業員が当事者意識を持ち、自ら考えることが重要だと思ったからだ。ポストアップ型を目指して

「まず取り組んだのは不良品の削減だ。これは収益に直結する。前日の生産数や廃棄数などの情

報を社内数力所に設置し

たモニターで全てオープンにした。自分たちの頑張りを『見える化』したことで不良品は金額ベースで半分減った。同時に在庫の削減にも取り組み始めた。道半ばだが、小さな数字の積み重ねで

収益改善につながっている」

―5年間で200億円規模の設備投資を予定しています。

「昨年度は40億円弱を投資し、本年度も同規模を予定している。群馬の

藤岡工場では高圧プレス機を新設し、来年3月の稼働を目指している。焼結炉の更新も計画しており、こうした合理化投資

を続けていく。新潟工場も生産性の向上へ、設備更新と合わせたレイアウト変更を進めている」

―世界的な半導体不足などで自動車メーカーの減産が続いています。

「第1四半期(4〜6月)の売上高は予算比で

20%ほど減った。足元は非常に厳しい状況だ。国内の競争も激化しており、これからは海外の売上比率を高めていきたい。直近の売上高は国内が186億円なのに対し、海外は28億円だ。海外への注力が足りていなかった。マレーシアと中国に子会社の製造・販売拠点がある。中国と東南アジア市場へのアプローチを強め、自社のポジションを上げていくことが重要だ」

―市場が拡大する電気自動車(EV)への対応も求められています。

「エンジンの焼結部品などを製造しているが、この先、EV市場が伸び、エンジンが使われなくなっていくのは確実だ。ただ、EVのモーターでも

焼結部品が使われることは分かっている。新たな要求性能にこたえるための

研究開発を強化していく」

いい・ひろし 早稲田大卒。1983年光洋精工(現・ジェイテクト)に入社し、常務執行役員などを歴任。2021年1月にダイヤモンド取締役に就任、同年4月から現職。東京都出身。